

視察研修・研修会等報告書

1、年 月 日 平成21年2月4日・5日（日数 1泊2日）

2、場 所 名古屋市柳原通商店街・産業技術記念館

3、視察、研修事項 ① 子育て支援施設による商店街の活性化事例調査

② トヨタグループのものづくりの伝統の調査

4、面 接 者 NPO法人まめっこ理事長 丸山政子 氏 ほか

5、視察研修、研修会の成果

① NPO法人まめっこ（名古屋柳原通商店街）

【視察のねらい】 現在田中商店街は売上げも落ち込み廃業する店舗も相次ぎ、活性化が求められている。こうした中で子育て支援施設による商店街活性化に取り組んでいる名古屋市柳原通商店街を視察することにした。

【経緯】 名古屋市柳原通商店街は名古屋城の北東に位置する商店街（92店舗）である。近くには公務員などの住宅街があり賑わっていたが近郊への大型店の出店に伴い徐々に人通りが減り、空き店舗も目立つようになっている。こうした中、子育て支援のNPO法人「まめっこ」（2000年創立）が子育て支援施設の開設に向け物件を探しており柳原通商店街の空き店舗に打診があった。

商店街は 当初、子育て支援施設の必要性を理解できなかったが、「子育て」

を切り口とした来街者の増加が期待できるのではないかと協調・協働体制がと

られるようになった。

【活動内容】 特定非営利活動法人「まめっこ」は平成12年にNPO認証を受

けている。これまで「ワーカーズてべんとうず」として名古屋市内を中心に親

子教室の開設や運営、子育てに関する企画運営を行ってきた実績があった。こ

うした中で平成15年、柳原通商店街の空き店舗に「0・1・2・3歳児とお

となの広場ー遊モア」を開設し、広場事業と一時保育事業をスタートさせた。

広場事業とは乳幼児とその保護者のための「親子の居場所」を提供するもの

だ。ここは子供たちにとっては他の子供たちと自由に遊べるスペースだ。親た

ちにとっては地域情報や子育て情報の交換や交流する場だ。子育ての時期は終

日子供と向き合う毎日であり、ストレスもたまり孤独にもなる。「遊モア」にお

ける子育て仲間との交流はなによりのリフレッシュの場なのだという。一時保育

事業では6ヶ月から5歳児を対象に一時保育を行っている。

こうした活動のほか、「まめっこ」は商店街との連携を重視し、商店街主催の

夏祭りやフリーマーケットに出店したり、イベントの際の休憩所として施設を

提供している。

【商店街活性化の効果】 このような活動を展開する中で、「遊モア」が愛知県

内で初めて国や県、市から補助を受けた施設としてマスコミに注目され、あわ

せて商店街の認知度も向上し、柳原通商店街は元気だと言うイメージが徐々に育っていった。「遊モア」ができたことで地域の中における商店街の良さが再認識されるようになってきた。また来街者に親子連れの姿が多くなり、親子向けの商品を開発したりするなど店主のやる気を引き出すことができたという。

【今後の課題】 NPO法人「まめっこ」理事長の丸山さんによれば、「遊モア」の経営を考えると現在の利用状況は十分とはいえず、補助金がなくなれば事業の継続は難しいという。これまでの中で障がい児やシングルマザーの子育て相談など地域の子育ての受け皿的役割を担いつつあるが経営的にはいまひとつだ。保育スタッフの育成のためには研修が必要だがその投資も難しそうだ。

これまではスタッフの個人的な思いと頑張りで支えられてきた。しかし継続性ということを考えた時経営的観点が必要になる。「遊モア」も柳原通商店街も補助金に頼らない自立した取組みが必要でありこれからが正念場だと感じた。

【参考になったことがら】 商店街の活性化を考える場合、私たちは来店促進のためのイベントや魅力ある商品開発、舗道や駐車場などの施設の整備などを考える。しかしそれはあくまでも売る側からの発想である。駐車場を整備したかからと言って来店客が増える保障はどこにもない。重要なことは商店街の中に人が集う仕組みをつくり上げることだ。子育て支援と商店街の活性化とを結びつけたところに柳原通商店街の取組みの大きな特徴がある。

いま当市においても子育てが大きな課題となっている。隔離した中で子育てをするのではなく、地域の人々とのかかわりの中で子育てをすることが大切になっている。それが商店街の活性化にもなればと思う。

② トヨタテクノミュージアム「産業技術記念館」

【視察のねらい】 「産業技術記念館」は、次世代を担う若者に「モノづくり」の大切さや素晴らしさを理解してもらうために、旧豊田紡織本社工場あとにトヨタグループが共同して設立したものだ。産業育成に取り組む我々にとっても、これまでのわが国を支えてきた繊維産業や自動車産業の歴史と伝統を学ぶことはきわめて意味のあることである。

【施設の概要】 産業技術記念館は「研究と創造の精神とモノづくりの心に、出会う、知る、体験する」をテーマに、実際に使われていた機械や設備など当時の工場の様子を再現し、動態展示しているところに大きな特徴がある。

広大な敷地に繊維機械館と自動車館があり、繊維機械館では大正時代に建てられた紡績工場の建屋をそのまま使用し、糸を紡ぐ技術と糸から布を織る技術の変遷を展示されている。自動車館では自動車の仕組みと構成部品、創業当時から現代にいたる自動車技術と生産技術の移り変わりが展示されている。本物と出会える施設でありモノづくりの心を伝える意気込みが感じられる。

【参考になったことがら】 産業技術記念館の動態展示は他に類例を見ない施設

である。これまで使われていた設備や機械、そして工場そのものを再現し、自動織機を実際に動かし織物を織る、大型プレスで実際に鋼板を加工するなどモノづくりを体感できる施設である。そして多くのインストラクターが配置されており、こちらの疑問に丁寧に答え実際に機械を操作してくれた。

我々もこうした製造現場を見ることはほとんどなく、モノづくりといっても頭での理解にとどまっていた。実際に現場に立ってみるとひとつのモノを作り上げることがいかに大変な作業であったかということを感じず。そしてそれを乗り越えるために我々の先達が努力し研鑽を積み、数多くの挑戦と失敗を繰り返す中で新しい技術が生まれてきたということを実感する。我々の産業育成への取組みにとっても、まさに現場に立った発想が求められている。

聞くとところによればトヨタグループの新人研修の一環にこの施設の見学が組み込まれているという。

いま若者の中でモノづくりなど理科系は概して人気がない。しかしわが国の外資を稼いでいるのはまさにモノづくりであり、長野県の産業の柱はモノづくりだ。こうした先人達の取組みを子供たちにもぜひ見てもらいたいと思う。
